

# 実況中継「土曜講座」

第 7 号

2022 年 9 月 9 日発行

市川学園 9月 3日の土曜講座 於 國枝記念国際ホール

## 飯田 和孝 先生

### 「私にとっての教育とテレビドラマ」

株式会社 TBS 「ドラゴン桜」 チーフプロデューサー



#### 飯田 和孝 先生のご紹介

- 1982 年 埼玉県熊谷市生まれ
- 1997 年 埼玉県立熊谷高等学校 入学
- 2001 年 早稲田大学教育学部 入学
- 2005 年 株式会社 TBS テレビ 入社  
初年度は人気番組「どうぶつ奇想天外！」に配属
- 2006 年 ドラマ制作部へ異動  
日曜劇場「南極大陸」「とんび」の制作に関わる (AP)
- 2017 年 日曜劇場「陸王」プロデューサー
- 2021 年 ドラマ「ドラゴン桜 第2 シリーズ」チーフプロデューサー

#### 主な講義内容の紹介

今年度第4回となる土曜講座では、株式会社 TBS テレビのテレビドラマプロデューサーの飯田 和孝 (い いた かずたか) 先生より、「私にとっての教育とテレビドラマ」という題でお話を頂きました。

埼玉県熊谷市にお生まれになった飯田先生は、地元の自由な校風が特色である埼玉県の名門、熊谷高等学校に進学されました。野球部に入部し、個性的な同級生に囲まれて、非常に濃い高校生活を送られたお話をお聴きすることができました。この内容が大変面白く、聴いていた生徒は飯田先生の世界観に引き込まれていました。その後、大学に進学し、母校にて教育実習に行かれるも、「教育者になる前に社会を知らねば…」と思われ、株式会社 TBS テレビに入社されたこととお話していただきました。講義の後半では、入社後のドラマのお話をメインに、ご自身の心の内の葛藤や、「人」との関わりについて、大変貴重なドラマ制作の裏話を挟みながら、語っていただきました。「自分とは何だろう…」という自問自答は、具体的な将来の想像をすることが難しい中高生の生徒の心に強く響き、共感を得ていました。ドラマ制作を通じて、人と出会い、そして深く密接に関わる中で、「自分だけで自分を作らなくてよい、みんながいて自分がある」という一つの解に辿りついたエピソードは、たくさんの生徒の希望の光になったことでしょう。生徒一人一人のこれからの人生に大きな影響を与えるご講義でした。

#### 受講レポートから

- 私がただ面白いと思って見ていたドラマは、たくさんの人の努力によってできているんだとよく分かりました。また、自分に自信をくれたり、支えられたり、きっかけになったりするようにたくさん考えられていることが伝わってきて、印象に残りました。周りにいる仲間をととても大切に、信じるということがとても重要だと思いました。お互いを助け合って支え合っていくことが、未来に役立つということが伝わりました。これからドラマを見るときは、このようにたくさんの人の努力と伝えたい強いメッセージによってできているとわかった上で、新たな気持ちで見たいと思いました。(中1女子)
- 飯田先生は、想像していた以上にたくさんのドラマに関わった方で、いろいろな裏話を聞いて面白かったです。思っているより、チーフプロデューサーという役割は演じる女優さんや俳優さんと関わりが多くて驚きました。ドラマでは、あんなにも堂々としていて上手な演技をする俳優さんが「自分の演技、大丈夫でしたか？」などと言っていたのを聞き、少し身近に感じることができました。「たくさんの方に関わっていただいたので感謝しています。」とよく俳優さんが言っているのをテレビで見ますが、本当にいろんな面で様々な人々が関わっているのだなと思いました。(中2女子)
- 今回の土曜講座では「人とのつながりの大切さ」を感じられました。先生がおっしゃっていた、子供の調子が悪ければ小児科医の友達を頼り、法に関して知りたかったら法学部の友達を頼る、と言う話を聞いて素敵だなと思いました。ワンピースの主人公ルフィの名言にも、「俺は仲間がいなくて何もできない」と言う言葉があり、それと似たようなものを感じました。私も先生と同じく友達は少ないですが、その数少ない友達を大切にしつつ、仲間の輪を市川学園でもっと広げられたらいいなと思いました。「0」から「1」を作り出す作業は本当に大変なことだと思いますが、ドラマを見るのが日常の救いであったり、そこまで行かなくても、楽しみになったりしている人はたくさんいると思います！これからも頑張ってください！(中3女子)
- 私は、1クールに4、5本のドラマを掛け持ちしてみるくらいのドラマ好きなので制作の流れや裏側を知ることができてとても面白かった。また、ドラマを作る上でリアリティーを1番重要視していることや、想像以上に制作に必要な労力が多いことを知ってとても驚いた。今はYouTubeや見逃し配信など、テレビをリアルタイムで見ることが少なくなっていく社会が変わっていて、「テレビ業界に入るのは危ない」と言われることもあるけれど、私は小さい頃からテレビを見て育ち、今日の講演を聞いて、とてもテレビ業界に興味をわいたし、楽しそうだった。飯田先生と同じように自分は何なのか、何をしているのか、に疑問を持ちながら、そして進路をどうするか悩んでいる日々を過ごしている最中だったので、「仲間と自分が一緒に自分を作っている」というメッセージは強く響いた。(高1女子)
- ドラマで面白いと思うのは話や原作が面白いと言うのはもちろんだけれど、違和感なく見てもらうために、制作でリアルを追求していると知り、大変興味深かったです。一流企業の名刺の渡し方とかは全然意識したことがなく、演技や撮影の奥深さも知れました。最近先生たちに言われた「受験は団体戦」「自分にレッテルを貼るな」「キャラ付けするな」というのと結びつく内容でした。「自分だけで自分を作ろうとしなくていい」と言うのは納得がいて1番印象深く残った言葉でした。(高2女子)



(文責：田島 明 先生)